

同時進行型



広島市立井口中学校
清水祥子

実践テーマ 生徒が資料を提示しながら、自分の考えを発表する。

授業の進め方・ICTの活用の仕方

- 〈導入〉市の象徴的施設として「マツダスタジアム」の写真を提示し、何が造られているか考えさせる。(興味・関心を高める、顔を上げ、意識を集中させる)
- 〈展開〉・広島市の歳入のグラフ資料を電子黒板に提示し、変化を読み取らせる。(資料の読み取り、理解を助ける)
・変化の原因をグループで話し合い、電子黒板に提示した資料を使いながら発表させる。(表現を助ける)
- 〈まとめ〉歳出から読み取ったまちづくりの構想をキーワードにまとめ、電子黒板のシートに書き込む。(本時の学習の確認を助ける)

本時の展開

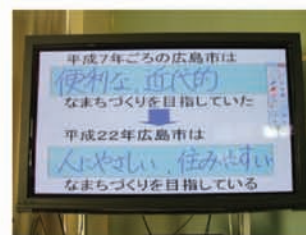
学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板の画像を見て、何が造られているか考える。 マツダスタジアムも広島市の施設で、広島市の予算が使われていることを知る。 学習課題「広島市の財政からまちづくりの構想を考えよう」の提示(PC教材①)。 	<ul style="list-style-type: none"> 自作PC教材(マツダスタジアムの写真) 使用ソフトウェア: PowerPoint® (Microsoft Corporation)
展開	<ul style="list-style-type: none"> 平成7年と平成22年の広島市の歳出のグラフを比較し、変化を読み取る(PC教材②)。 変化の原因をグループで考える。 グループで考えた結果を電子黒板に提示した資料を使って発表する(PC教材②)。 	<ul style="list-style-type: none"> 自作PC教材(広島市の歳出グラフ)(配布資料)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 歳出から読み取った平成7年と平成22年の広島市のまちづくりの構想をキーワード(PC教材③)にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自作PC教材(広島市のまちづくり構想へ)



グラフを提示し、考えさせ変化を板書



配布資料を電子黒板に提示し、必要に応じて書き込みして、説明



生徒のキーワードを電子黒板に書き込む

生徒の反応・効果

- ・電子黒板に画像や資料を映すことで、生徒が授業に集中し、学習に意欲的に取り組むことができた。
- ・生徒に配布した資料と同じものを電子黒板に映すことで、指示や説明が簡単にできた。
- ・生徒が変化の原因を発表する際、その根拠となる資料を電子黒板に提示し、説明する。聞き手を納得させるために、どのように資料を活用するのが有効か考えることで、思考力や表現力が高まった。

活用のポイント

- ・グラフの変化の読み取りなどをさせる時は、黒板にグラフを貼り比較させる。電子黒板だけでなく、黒板の板書や紙の資料など従来のメディアも併用するとよい。
- ・生徒が自分たちの考えを発表する時に電子黒板を使用させると、プレゼンテーション能力が高まり、わかりやすい発表をさせることができる。